

令和2年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

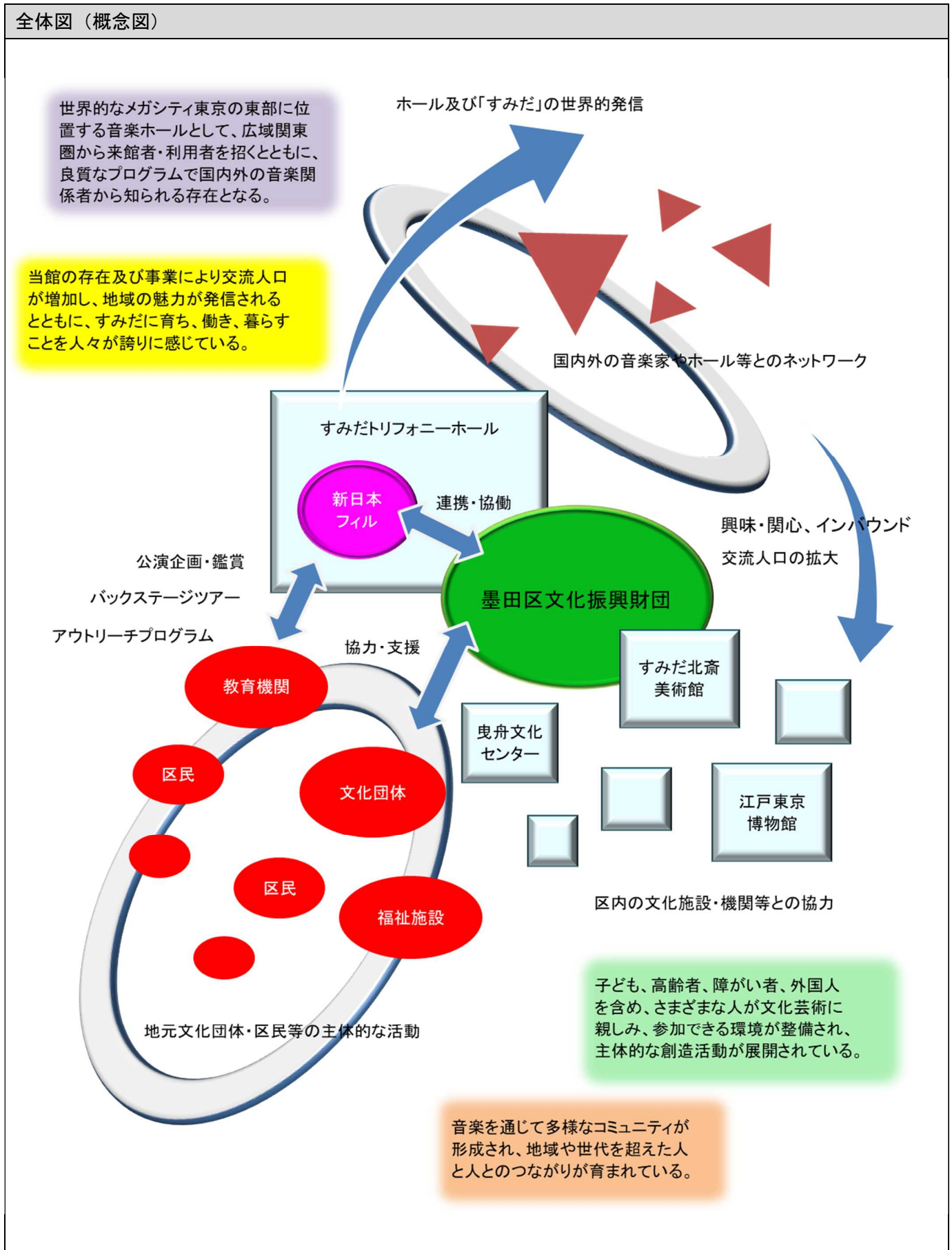
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人墨田区文化振興財団	
施 設 名	すみだトリフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	文化芸術振興による「すみだ」の地域力の向上	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	33,448	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「SOUND Dream Project」	2020年6月10日(水) ※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,000
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	—※
2	「新日本フィルの生オケ・シネマ vol.5 チャップリン《街の灯》」	2021年3月17日(水) ※	演目：チャップリン 《街の灯》 (86分、休憩なし) 出演：竹本泰蔵(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	910
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	739
3	Fun!Fun!Fun!2020 映画名シーンをオーケストラとともに	2020年8月10日(月) ※	曲目：星に願いを、アズ・タイム・ゴーズ・バイ、雨に唄えば、他 出演：竹本泰蔵(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	800
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	419※
4	綾小路きみまろ爆笑ライブ with 新日本フィル「大人のハーモニー」	2020年12月6日(日)	演目：綾小路きみまろ爆笑ライブ、グローフェ/ミシシッピー組曲 他 出演：綾小路きみまろ(漫談・司会)、角田綱亮(指揮・お話)、新日本フィル	目標値	950
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	747
5	「小菅優 & 新日本フィル《生誕250周年オール・ベートーヴェン》」	2021年1月6日(水)※	演目：ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、他 出演：小菅優(ピアノ) 角田綱亮(指揮) 新日本フィル	目標値	600
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	661
6	「第7回 音楽の魅力発見プロジェクト・スペシャル」	2020年8月15日(土) ※	演目：ベートーヴェン/交響曲の全1楽章 出演：下野竜也(指揮)、新日本フィル 注：1日2回公演として実施※	目標値	850
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	536※ 448※
7	「すみだ平和祈念コンサート2021」プロジェクト	2021年3月10日(水) ※	演目：ベートーヴェン/交響曲第2番、ゲーテの悲劇《エグモント》への音楽 出演：秋山和慶(指揮)、石丸幹二(朗読)、櫻井愛子(ソプラノ)、新日本フィル	目標値	900
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	541※
8	「ベルリンフィル・ホルンカルテットの世界一周」	2020年7月2日(木)※ (公演中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	650
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	—※
9	講談：神田松之丞 真打祝・独演会	2020年11月5日(木) ※	演目：「扇と的」「東玉と伯圓」「中村仲蔵」 出演：六代目 神田伯山(講談)	目標値	900
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	1,141
10	トリフォニーホール パイプオルガン・バレンタイン・コンサート2021	2021年2月11日(木) ※	演目：メンケン/『美女と野獣』メドレー、パッヘルベル/カノン、他 出演：室住素子(オルガン)、操美穂子(ハープ)、田添菜穂子(司会)	目標値	700
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	595
11	トリフォニーホール for クリスマス 2020	2020年12月11日(金) ※	出演：長田真実[オルガン]、田添菜穂子[司会] 注：1日2回公演として実施	目標値	600
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	775※ 771※
12	トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラ	① 2020年8月22日(土) ※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演はすべて中止となり、年度最後に2回の合奏練習のみ実施した。	目標値	4,000
		すみだトリフォニーホール 墨田区総合体育館		実績値	—※
13	すみだ音楽祭2020	2020年 ① 8月23日(日)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	12,000
		すみだトリフォニーホール 大ホール・小ホール		実績値	—※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	パイプオルガン・コンサート&バックステージ・ツアー	通年	出演：木村理佐、原田真侑、東方理紗 [パイプオルガン]	目標値	100
		すみだトリフォニーホール 大ホール		実績値	179
15	新日本フィル活用アウトリーチ・プログラム	通年※	新日本フィルハーモニー交響楽団 楽員	目標値	5,000
		墨田区立小中学校 墨田区内福祉施設		実績値	5,976※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>当ホールは東京東部地域の音楽文化の拠点であること、日本初の本格的なフランチャイズ制度により新日本フィルハーモニー交響楽団が活動の本拠地としていることが大きな特徴である。</p> <p>多彩な事業の展開を可能にするフランチャイズ・オケの存在や開館以来ホールを支える優秀なテクニカルスタッフ、東京の東の中心地錦糸町という恵まれた立地特性、世界のアーティストも称賛する優れた音響特性やパイプオルガン、建物と一体となったアート作品、特色ある建築設計などを生かして、質の高い事業をホール内外で展開し、すみだの地域力向上に資することを目指した。</p> <p>令和2年度は、ホールは新型コロナウイルスのため4月8日（水）から6月21日（日）まで臨時休館、再開後も客席収容率の制限や外来アーティストの来日不可などの影響を受けた。助成対象の15事業のうち、計画通り実施できた事業は2事業、収容率制限のみ受けた事業は1事業、出演者や日程など内容変更の上実施した事業は8事業、中止した事業は4事業となった。</p> <p>また、7月に財団に新理事長が就任し、新体制となった。理事長の実質的な主導の下、新日本フィルや墨田区、墨田区議会、地域の産業界や商店会等との積極的な関係の構築に、改めて注力した。</p> <p>ホールはコロナ禍でも事業実施をできるだけ計画に近づけるよう努め、創造発信的公演から地域ニーズに対応した親しみやすい公演だけでなく、福祉、教育、地域力の向上といった墨田区の行政課題と連携したアウトリーチをはじめとする事業まで幅広く、ほぼ計画の趣旨通りに実施した。これら事業のほとんどがフランチャイズ・オケである新日本フィルを活用したものであり、フランチャイズ制度の強みが発揮された。</p> <p>さらにホールの営業・公演再開においても新日本フィルと一体となり、墨田区とも連携していち早く取り組んだ。臨時休館期間中に医師立ち会いによる演奏実験などを行って感染症対策をまとめ、早期に公演を再開することができた。コロナ禍でも文化施設としての機能を高め、出来る限り事業計画を執行して音楽文化の提供を維持し、ミッションの達成を図った。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>令和2年度の事業は、一部中止や変更は生じたものの、出来る限り計画に近づける形で実施できた。</p> <p><u>文化的意義</u>：神田伯山の講談や石丸幹二の平和祈念コンサートでの朗読では、拡声した音声でもアコースティックな生音と遜色なく高いレベルで大ホールで聴くことができることが明らかになった。当ホールの優れた音響特性というアドバンテージは、音楽にとどまらない新たなジャンルの可能性を示した。</p> <p>特に神田伯山公演は、3階席でも満足できると好評であった。</p> <p>綾小路きみまろ公演は、漫談とオーケストラのコラボレーションという新しい試みであった。</p> <p>また、外来アーティストの起用を計画していた事業は国内アーティストの起用に切り替えたが、日本人演奏家の有効活用という効果につながった。</p> <p>ホールの重要資源であるパイプオルガンを活用した事業では、一般来場者だけでなく未就学児や障害者、車椅子利用者などへもバックステージ・ツアーを実施、音楽だけでなくホールの特徴的な建築設計や建物と一体となったアート作品の鑑賞など、総合的な文化体験を提供した。</p> <p><u>社会的意義</u>：1988年の墨田区と新日本フィルハーモニー交響楽団とのフランチャイズ提携に基づき、1989年から30年以上にわたり継続して実施しているアウトリーチ・プログラムは、これまでに200,000人以上の区民へ、区内の学校や障害者や高齢者などの福祉施設を会場として音楽を届けてきた。コロナ禍でも多くの受け入れ先から実施の強い希望があり、協力して厳重な感染症対策を施しながら、実施回数はほぼ予定通り、参加者数は目標を上回るなどの実績をあげ、行政課題解決や教育普及に貢献した。</p> <p>また、新日本フィルとも協力して、助成対象事業も含む全11公演で墨田区内の医療従事者および関係者を公演に招待、46名の参加を得た。</p> <p><u>経済的意義</u>：主催公演アンケートでは、区外からの来場者は67%で、墨田区を訪れる人口の増加に貢献した。またコンサート前後に区内でショッピングする人は70%で、近隣店舗などへの波及効果を創出している。さらに地元商店や企業で構成する「錦糸町を元気にする会」にも参加、地元との連携を強めている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当初の事業計画の変更を余儀なくされた一年であったが、可能な限り公演を中止せず、開催時期の変更、海外出演者を国内アーティストへ変更するなどして実施した。

■東京東部地域の音楽拠点として広域関東圏から来場者を招き、良質なプログラムを提供

人気シリーズ企画「平和祈念コンサート」や「下野達也 音楽の魅力発見プロジェクト」「生オケ・シネマ チャップリン《街の灯》」などのバラエティ豊かな事業の展開と、新たに「神田伯山独演会@すみだ」、「綾小路きみまる爆笑ライブ&新日本フィル」など、講演や漫談などの話芸の分野に着目した。

感染リスクの影響から来場者は広域の移動を控える傾向にあり、年間を通して東京圏からの来館が90%を超える結果となった。令和2年度の年間来館者数は48,287人、例年の1/5程度にとどまった。

■子ども、高齢者、障害者、外国人を含め、さまざまな人々が文化芸術に親しみ、参加できる環境が整備され主体的な創造活動が展開される。

■音楽を通じて多様なコミュニティが形成され、地域や世代を超えた人と人とのつながりが育まれている。

新日本フィルとのアウトリーチ事業は、フランチャイズ提携を象徴する事業としてトリフォニーホール開館前から実施している。「コミュニティ・コンサート」「ふれあいコンサート」「音楽指導事業」の3事業から成り、墨田区における教育、福祉、地域力などの行政課題の解決に寄与する多彩なプログラムを実践し、他に類を見ない圧倒的な活動量と継続性を誇るものである。これらの何十年にもわたる実績と地元住民との信頼関係が構築されているからこそ、コロナ禍においても十分な感染対策の下、精力的に取り組み、区内56会場で実施することができた。

①「コミュニティ・コンサート」

- ◆地域コミュニティの中心である学校の体育館を会場に、フルオーケストラコンサートを実施。地域の住民が集い、人と人を繋げる街づくりとしての役割を担う。
- ◆墨田区立寺島中学校で実施。参加者数268人
- ◆平成元年度～令和2年度までにのべ63校18,768人が鑑賞

②「ふれあいコンサート」

- ◆コンサートホールへの来場が難しい方を対象に、福祉施設や子育て施設へ出向きコンサートを実施。
- ◆20会場で実施 参加者数1,376人
- ◆平成元年度～令和2年度までにのべ560回 59,776人が鑑賞

③「音楽指導事業」

- ◆毎年区内の全小中学校に新日本フィルメンバーが出かけ、音楽の授業で生演奏する出前特別授業。
- ◆全36校中35校で実施 参加者数4,332人
- ◆平成5年度～令和2年度までにのべ1,005回 135,982人が鑑賞

■当館の存在及び事業により交流人口が増加し、地域の魅力が発信されるとともに、すみだに育ち、働き、暮らすことを人々が誇りに感じている。

主催事業にて実施している来場者アンケート結果によると、トリフォニーホールへの満足度は「十分満足」＋「満足」において96%となり、高い評価を得ている。また70%近くが公演の前後に近隣施設で買物をしており、トリフォニーホールの存在が周辺地域への経済波及効果をもたらす墨田区のシンボリックな文化施設として賑わいを創出していることがわかる。また令和3年2月6日テレビ東京「出没！アド街ック天国」錦糸町特集ではトリフォニーホールが人気ランキングの2位となり、新日本フィルおよびパイプオルガンが大きく取り上げられた。放送後は地元の各方面から大きな反響があり、錦糸町や墨田区のイメージアップに貢献する存在として広く認識されていることがわかった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

当初は年間を通じてほぼ満遍なく事業を実施する計画だったが、新型コロナウイルスの影響により4月から6月まで臨時休館を余儀なくされ、この間に予定していた事業は延期または中止となった。

また事業費についても新型コロナウイルスの影響を受け、計画から縮減となった。

4月から6月までの臨時休館および国外アーティストが来日できない状況となったことにより、計画には変更が生じた。助成対象事業における新型コロナウイルスの影響は以下のとおり。

- ・影響を受けなかったもの：事業番号4、14
- ・収容率制限のみ受けたもの：事業番号3
- ・出演者や日程を変更したもの：事業番号2、5-7、9-11、15
- ・中止したもの：事業番号1、8、12、13

しかし、可能な限り公演を中止せず、開催時期の変更や、外来アーティストを国内アーティストへ変更するなどにより事業実施を図り、中止とした公演でもその内容の一部（聴覚障害者への鑑賞補助機器提供）を別の公演内に組み込んだりすることで、基本的に当初事業計画で各公演に設定した趣旨・目的・内容は、達成できた。

また、教育機関や墨田区内福祉施設と連携して実施するアウトリーチ事業については、新型コロナウイルスの影響下でも実施できるよう、学校や施設側と実施会場に合わせた感染症対策について綿密に打ち合わせを行った。結果、感染防止に留意しながら区立小中学校のほぼ全校での音楽指導事業ならびに区内福祉施設でも例年と変わらない回数を実現できた。

これらには妥当性の欄でも記載したとおり、フランチャイズ・オケの存在が大きく寄与している。

新型コロナウイルスの影響により、助成対象事業の経費全体は計画の80%に削減、チケット販売収入は計画の70%にとどまった。

入場者数については以下のとおりである。

- ・予定入場者数 29,960人
- ・実績入場者数 13,528人

中止とした公演があること、国外アーティストを邦人アーティストに変更したこと、また財団全体としての収入も大幅に減っているため様々な工夫を重ねて経費削減に務めたこと、などが経費縮減の要因である。工夫の例としては来場者アンケートをオンラインに移行したことがあり、これは感染症対策にもなっているため有効な手段であった。

国外アーティストから国内アーティストに変更して実施した「小菅優&新日本フィル（事業番号5）」や、人気の高い出演者1名の「神田伯山（事業番号9）」、国内演奏家で当ホール的重要な資源であるオルガンを生かした「パイプオルガン・クリスマス・コンサート（事業番号11）」は、経費節減と高い評価の両立し、効率性の高い事業となった。

新型コロナウイルスの影響により、チケット販売収入や利用料金収入など財団全体としては大幅な減収となった。この事態に対して、墨田区からは利用料金収入の補填というサポートがあり、経営を安定させることができた。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

■劇場・音楽堂を象徴する人物、鍵となる人物の存在

すみだトリフォニーホールは、昭和 63 年に墨田区と新日本フィルハーモニー交響楽団との間で締結した我が国初のフランチャイズ提携に基づき、同楽団が活動拠点としていることが大きな特徴である。現在、第 4 代音楽監督である上岡敏之氏は音楽的クオリティを追求する一方で、「街に密着したオーケストラでありたい」として、音楽を通じた次世代育成に注力してきた。しかしながら上岡氏自らが学校へ出向くアウトリーチ・プログラムと、地元の生徒と新日本フィルとの共演など、意欲的な提案による企画はドイツ在住の上岡氏の来日が叶わず変更せざるを得なかったが、こうした地域と密着した取り組みは今後も重要な事業として位置づけ推進していく。

今年度、財団では新理事長に小林清明治大学公共政策大学院教授が就任した。すみだトリフォニーホールの開設およびフランチャイズ制度の構築に関わり、また東京都生活文化局長を務めたことから、これらの経験と幅広い視点を生かし就任以来墨田区との連携を深め様々な改革に取り組んでいる。また開館当初より高度な専門技術を有する舞台スタッフが常駐しており、多彩な公演を高品質で創り上げる一翼を担っている。彼らはトリフォニーで培った技術力と経験をもとに全国の文化施設の舞台スタッフとして活躍を広げており、トリフォニーホールが人材育成の場となっている。

助成対象事業の新規展開として朗読をはじめ、伝統芸能分野ではこれまであまり取り上げてこなかった講談や漫談などにも焦点を当てて実施した。アコースティックなコンサートでの音響の良さには定評があるが、拡声すると明瞭に届けることが難しいとされてきた音声についても、全席にて遜色なく聞こえることが明らかになり、ホールにおける今後の事業展開の新たな可能性を引き出した。

■新日本フィルとの独創性、新規性に優れた取り組み

関東大震災や東京大空襲で甚大な被害を受けた墨田区のホールとして開館当初から実施している「すみだ平和祈念コンサート」は、指揮者秋山和慶氏本人も空襲の体験者として平和の尊さを音楽を通して国内外に発信した。また「音楽の魅力発見プロジェクト・スペシャル」は、指揮者下野竜也氏によるレクチャーと演奏が楽しめるシリーズ企画として人気があり、今年度は第 1 部でベートーヴェン全交響曲の第一楽章のみを演奏し、作曲家の生涯を音楽で理解するという独創的なプログラムを展開した。第 2 部では、抱きかかえることで音楽を視覚と触覚で感じられる球体型デバイス「SOUND HUG」（サウンドハグ）を用い、聴覚に障害のある方にも音楽を体感できる新規性、先導性の高い内容に取り組んだ。

■中小企業振興などの行政課題の解決にも貢献する取り組み

助成対象事業ではないが、先導的な取り組みとして分身ロボット「OriHime」（オリヒメ）を活用したコンサートを新日本フィルとの協働で実施した。OriHime はものづくりの現場である墨田区内の町工場のインキュベーションセンターから生まれたロボットである。病気や障害などで外出困難な人に代わり、インターネットによる遠隔操作で意志・感情・存在を伝え、会話も可能であるところから、人と人との接触が制限される中でも社会とのつながりを失わずに、誰もが参加できるコンサートとして多くのメディアに取り上げられた。福祉分野と音楽の連携はもちろんであるが、墨田区の特性であるものづくり産業と音楽の融合を試みた画期的な取り組みであった。

また障害者や高齢者施設向けに新日本フィル金管五重奏を DVD に収録し施設内で鑑賞してもらうなど、コロナ禍での多彩な事業を展開した。

■公演の企画内容の独創性

オルガン演奏の様子や共演者のハーブ楽器を大スクリーンに映し出し解説するパイプオルガン・コンサートの独創的な企画は臨場感溢れる演出が好評を博した。また「パイプオルガン・コンサート&バックステージ・ツアー」では、乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層や、視覚、聴覚に障害のある方、歩行が困難な方を対象に舞台機構やアート作品を見学してもらう独創的かつ先導的な事業を実施した。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

令和2年度は、コンサートやイベントはコロナ禍で様々な制約を受けた。そうした中で、不要不急の外出や長距離の移動を控えるよう要請が出されると、墨田区を中心とする地元の人たちの中には、近隣で楽しめるイベントへのニーズが高まる面があったと思われる。当ホールが実施した神田伯山や綾小路きみまろ、オルガン関連事業や下野竜也によるレクチャーコンサートなどは、親しみやすい公演が身近なホールで開催されるという、墨田区をはじめとする地域住民のニーズに合致したのではと考えられる。ホールとしても近隣の商店とのタイアップなどで地元積極的にアピールした。

令和2年度の来場者アンケートによれば、来場者の居住地は以下のとおりとなった。

墨田区：33% 周辺区（江東区・台東区・足立区・葛飾区、江戸川区）：19% 千葉県：17%

※参考：平成30年度の来場者アンケート 墨田区：25.6%、周辺区：10.3%、千葉県：15.4%

7割近くがホール周辺地域からの来場という結果が表れており、例年以上の水準となった。

また、ホールに対する満足度は、「たいへん満足している」「まあ満足している」を併せて96.2%と高い数値であった。

検温や消毒とマスク着用、十分な室内換気など感染症対策を徹底し、いち早く市松配席を採用するなどお客様が安心して来場できる環境を準備し、新日本フィルと一体となって早期に公演を再開したことは、来場者アンケートに「久しぶりに楽しい時間を過ごせました」といった声が寄せられるなど、ホールへの評価向上につながったと考えられる。

■メディア等掲載の主なもの

・令和2年9月11日 テレビ東京『ワールドビジネスサテライト』

9月19日以降にイベント収容率が緩和されるにあたり、東京を代表するホールとして取材を受けた。ホールの感染症対策や新日本フィルの演奏会の様子、人数制限が緩和された場合の対応や懸念についての理事長インタビュー、来場されたお客様へのインタビューなどが放送された。

・令和3年3月11日 朝日新聞朝刊（川の手版）

3月10日に開催した「すみだ平和祈念コンサート2021」が写真入りで記事となった。内容は、公演の様子と指揮を務めた秋山和慶の平和へのコメント、この公演をはじめ当ホール主催ならびに新日本フィル主催の公演で実施した墨田区内の医療従事者への公演招待事業についてである。

・令和3年4月18日発売 月刊誌『音楽の友』2021年5月号

3月10日に開催した「すみだ平和祈念コンサート2021」の公演レポートが写真入りで掲載された。

「音楽そのものが平和祈念のメッセージを聴き手に強く訴えかけていた」（取材・文：萩谷由喜子）

●公式サイト、公式 SNS などの状況

ホールの無料メルマガ会員組織「トリフォニーホール・チケットメンバーズ」について、例年墨田区民の新規加入者は150人程度で推移してきたが、令和2年度はコロナ禍での地元ニーズの高まりを反映して例年の2倍を超える400人以上の新規加入があった。

その他の媒体は、新型コロナウイルスの影響により例年に比べて増加数や反応はやや低調であった。

・ホール公式サイト

ユーザー数：129,818／令和2年4月-令和3年3月

(266,398／令和元年4月-令和2年3月)

ページビュー数：665,690／令和2年4月-令和3年3月

(1,281,589／令和元年4月-令和2年3月)

・トリフォニーホール・チケットメンバーズ（無料のメールマガジン会員）

登録数：21,620人／うち区民2,185人／令和3年3月

(20,196人／うち区民1,767人／令和2年3月)

(17,838人／うち区民1,512人／令和元年3月)

・ホール公式 Facebook

いいね数：4,143／令和3年3月

・ホール公式 twitter

フォロワー数：6,238／令和3年3月

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

令和2年度は新理事長が就任した。アウトカムの発現が持続・定着するよう、中長期的なホールの展開を見据えて様々な新しい取り組みを開始した。

令和3年度に開館25年を迎える当ホールは将来の大規模改修を控えており、東京東部地域の音楽文化の拠点としての役割を継続していくためには、地元墨田区民により一層支えられるホールを目指すとともに、墨田区や区議会といった行政及び議会の理解、区内で活動する様々な団体との連携を強化し、ホール運営を行っていくことが重要である。

このため令和2年度は次のような新たな試みに着手した。

◆墨田区との連携の強化、区議会との定期的な意見交換会の実施。

◆墨田区、新日本フィル、ホールの3者の幹部による定期的な幹部会の開催。

◆戦略的な広報の展開。

（例：区のものづくり企業や商店会、新しい大学などにホールをより知ってもらう）

◆インターネットによる区民モニター制度の実施に向けた準備。

（例：ホールやフランチャイズ・オケへのニーズ、開館25周年事業の展開、アウトリーチの新たな展開）

組織・人事面では以下の取り組みを行った。

◆音楽事業担当課長の新設及び空席だった音楽事業係長の配置

（開館25周年事業、戦略的な広報展開、区民モニター制度の実施のため。）

◆音楽事業エグゼクティブ・アドバイザーを起用

（トリフォニーホールで勤務経験があり、あらゆるジャンルの企画制作のノウハウを持ち合わせているホールを熟知した人材と委託契約）

◆すべての組織の目標を設定し、個人の目標をそこに結び付ける本格的な目標管理制度の導入の準備

（全職員のレベルアップと人材育成を図るため）

人材育成として、音楽大学とのネットワークにより例年1名程度のインターンを受け入れてきたが、令和2年度も1名のインターンを受け入れた。インターン終了後はホールでのアルバイトにも従事、将来の音楽文化を支える人材となることが期待される。

また、パイプオルガン・コンサート&バックステージ・ツアー事業では奏者に音大生を起用し、演奏などの経験の場を提供することで若手演奏家育成に貢献している。

他館とのネットワークとして、コンサートホール企画連絡会議を、札幌コンサートホールKitara、新潟りゅーとぴあ、所沢ミューズ、京都コンサートホール、アクロス福岡とともに実施してきたが、令和2年度は一堂に会しての会議は見送り、リモートで2回開催した。コロナ禍での各ホールの感染症対策や事業の実施・変更などの状況など、情報共有に大変有効だった。

当ホールの重要な事業の一つである「トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラ」については、コロナ禍での子どもたちの安全を鑑み、年間を通じて活動を休止した。ただしその間も、松尾葉子音楽監督やトレーナーである新日本フィル楽団員からのメッセージを発信するなど、ホールとメンバーとのコミュニケーションを図ることに努めた。

財務面では、財団全体としてコロナ禍で大幅な減収となったが、区や区議会の理解によって、利用料金収入について補填を得ることが出来た。なお令和3年度には、区からは指定事業だけでなく、自主事業の一部に対しても推進補助金が得られることとなり、財団事業のさらなる発展が期待されている。